**2022年巻頭言**

　　　　　　　　　　　　　**食科協年頭ご挨拶**

特定非営利活動法人　食品保健科学情報交流協議会

理事長　馬場良雄

2022年最初の食科協ニュースレター発信に当たり謹んでご挨拶申し上げます。

昨年はコロナ禍の中で食科協の活動も制限される中、かわら版やニュースレタ

ーを発信すると共に、6月及び11月にハイブリットによる勉強会、講演会を開催する事が出来、情報発信継続できました事、会員の皆様、理事・運営委員の皆様、食品衛生行政の皆様等のご支援、ご協力の賜と、厚くお礼申し上げます。

2020年から続く新型コロナは、収束見えないままの3年目を迎える2022年もスタートしました。一昨年来その対応に当たって頂いている医療機関の方々、各自治体の関係者の皆様にこころから感謝申し上げます。昨年末からオミクロン株の拡大が予測される中、正月明けから急速に感染者数も増大し、感染拡大が続いており、WHO発表によると世界では1月9日までの1週間で1500万人の新規感染者がでたとの事で、世界中で感染は急拡大しております。オミクロン株の特性についてはこれから解明されていくでしょうが、世の中からウィルスの存在を完全に排除することは不可能であり、ウィルスとの共存した社会生活の在り方が一層強く求められ、模索する年になろうかと思います。

一昨年来、新型コロナウィルス感染症拡大の中で、各種の法改正実施期日が迫る規制について行政当局も「弾力的運用」を通知し実施期日の遅れを容認する事例もありましたが、新型コロナ拡大3年目となる本年は、そのような弾力的運営も無くなり速やかに対応する事が求められるようになると思います。

2018年の食品衛生法改正の中でも食品衛生管理の向上にとって重要なHACCPによる衛生管理の義務化についても昨年6月から完全施行されておりますが、改めてその対応状況を確認する必要があると思います。HACCPによる衛生管理の義務化については先行実施している米国の実態と課題は参考になるものと思います。昨年の食科協ニュースレター220号で紹介して頂いた米国食品安全プログラムの監査を実施しているコンサルタントの感想は、日本でまさにこれから本格実施する際に重要な課題であると思いここに再度記しました。そのレポートには「食品安全計画の致命的な欠陥トップテンがまとめられております。詳細はNL220号をご覧いただきたいと思いますが、【①食品安全計画が「新しい服」を着せただけで旧いHACCP計画のままである。③食品安全計画において「食品の安全性」と「食品の品質」を区別していない。⑦従うのが難しい、混乱を招くような食品安全文書になっている。⑼食品安全計画が、実際の「意図する消費者」を考慮に入れていない】等日本においてHACCPあるいはHACCPに基づく衛生管理計画を推進、実施するにあたり、今一度留意すべき視点であると思います。

食品表示法に関しまして昨年末に「食品添加物の不使用表示に関するガイドライン(案)」が消費者庁から出されパブリックコメントを受けた後本年3月には通知される予定となっております。これまでの「不使用表示に対する課題」の重要な視点はその表示が消費者に優良誤認をさせるものか否かであります。その課題が事業者にも分かりやすくすべく、不使用表示に係る表示を10の類型に分け、それぞれの類型で優良誤認になる可能性のある表示を解説しております。食品事業者としては事実に基づき且つ事業者にとって都合の良い点のみを強調するような表示によって消費者に優良誤認されないよう努めたいものです。また、遺伝子組み換え食品の表示についてはすでに現在より厳格化され2023年4月までに対応する事が求められております。この改正についても「消費者が食品を選択するための適切な情報」を「「優良誤認されないような表示」にすることを趣旨としていると思います。食品添加物にしても遺伝子組み換えにしても「科学的データに基づく安全性」の課題ではないだけに「食品の安全性に対する科学的理解の為の情報提供」についても考え続けなければならないと常々思っておりますが、「優良誤認」されるような文言・表示とは何かについても考え続ける必要があると思っております。その様な視点からも「リスクコミュニケーション」は、2003年食品安全基本法施行以来その重要性が言われ続けていますが、まだまだ道半ばであり、今年もますます重要になると思います。

さて、NPO食科協は2003年に設立され、今年20周年となります。関係する皆様のご支援、ご指導によりここまで継続する事が出来ました。20周年を機に「リスクコミュニケーション」を演題とした記念講演会を開催すると共に、改めて「NPO食科協コミットメント」を作成し、それと共に新たな活動計画も検討し、継続・発展させていきたいと思っております。本年6月の記念講演会、総会にて皆様にお示しすべく検討を進めております。また、昨年4月にホームページを刷新すると共に「ニュースレター」「かわら版」の充実を図り情報発信に継続して努めているところです。新型コロナ感染症の収束は未だ見通せていませんが、冒頭で述べました通り、ウィルスと共存せざるを得ない中での社会活動はどうあるべきかを考えつつ、NPO食科協の活動を通して食品の「安全・安心」に貢献できる様努力を続けたいと思います。

NPO食科協の継続・発展の為には正会員・賛助会員の増加も重要な課題です。繰り返しになりますが、皆様の一層の温かいご指導とご支援をお願い申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。